



第113号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会
編集人 堀内文夫
印刷所 西原新聞社

教師と研修

上高井教育会長 堀内文夫



私たちが上高井教育会では、昨年度創立百周年記念事業を盛大に実施した。今年度は、新しい百年に向かつての出発の年であり、二十一世紀に向かつての出発の年でもある。また百周年記念の精神や決意を実践へ移す第一年次でもある。お互いに自己を見つめなおし新しい時代への展望と強い意欲をもって出発したいものである。

時あたかも、いじめの問題をはじめ教育にかかわる問題が、国民の大きな関心事となっている。また臨時教育審議会でも、教育改革に関する二次答申を出し、二十一世紀へ向けての教育の基本的な在り方を示すとともに、教育改革についての総合的・基本的な

改革提言を行った。

国も社会もあげて教育を憂い、教育に期待を寄せている現在、我々教育関係者として主体的に受けとめ、積極的に対処していかなばならない。昔から「教育は人にあり」と言われているが、これは古くしてまた新しいことばである。教育において、最も重要な役割を果すのは教師である。従って、教師自らがその自覚に立って、常に自己自身を人格的に磨き、教育者としての資質能力の向上に努めることは、臨教審の答申の如何にかかわらず、専門職として当然のことである。

では教師の資質とはなんであるか。それは一言にして言え、暖かい人間性であり、深い専門性である。答申の中に国民が望む教師の資質として、○児童・生徒に対する深い教育愛 ○広く豊かな教養と人間性 ○教育者としての使命感 ○教育の理念や人間の成長・発達についての深い

理解 ○教科等に関する専門的知識 ○実践的な指導力と児童・生徒との心の触れ合い等をあげている。これは、ある意味では、国民が求めている教師像である。またこれをまとめてみると、教師に求められる専門的な能力と、教師に求められる人間的な資質の二つにまとめることができよう。そしてその根底をなすものは、あくまでも教師の教育愛である。

教育は、いかに制度を改め内容の改革を図っても、教師自身が教育者としての強い自覚を持ち、使命感に燃えて自らを戒め、自ら向上しようとする努力をしなければ、改善されもしないし、充実もしないのである。自己充実をめざす教師こそ必然的に研修に励むものである。研修こそ教師の命であり、愛の姿の現われである。

ところで臨教審の答申の二十一世紀に向けての教育の基本的な在り方の中で「学校も自由・自律・自己責任の原則

を教育の場で貫徹するよう発想の根本的な転換を行うことと、そのためには教師自身が自律的精神を持って主体性が確立してなければならぬ」といつている。今我々教師に求められる大きな一つとして教師の自律的精神があげられる。

即ち、二十一世紀に向けての豊かな活力ある教育を担う教師にとつては、自ら変える姿勢と、それを促す研修を教師自らが考え、主体的に取り組んでいくことが何よりも大切である。

カリキュラムにしろ教材にしろ、そこにあるからやるとか、授業でも昔からこうやってきたからという旧態依然たる態度でなく、二十一世紀の展望の上を立って、積極的に新しいものを見出し、古きよきものを見出していくという「不易流行」の考えが大切である。

この不易流行の精神は、常に求めてやまない研修の姿を作り出しており、これこそ教師の姿でなければならぬ。幸いにわが上高井では、先輩が営々と築いてくれた、教育会の両輪とも言うべき研究委員会と同好会が、最高の研修の場として存続している。

しかし、これを最高の研修の場たらしめるか否かは、その人の教育的愛情であり、それに支えられる自律心に負うところ大である。今こそ教師の使命を果すために、自己の研修に執念を燃やし、最善の努力を払おうではありませんか。

教育会だより

- 4・1 選挙公示―役員選挙―
- 4・7 第一回代議員会
- 4・14 第一回常任委員会
- 4・11 第二回代議員会
- 4・17 教科研究総委員会 於 須坂小学校
- 講演会 中心講師 三枝孝弘先生 演題 「教育改革と授業の原則」
- 4・25 教研三団体結成会
- 5・1 第三回代議員会
- 新任者会員歓迎会―新任者会員 14名
- 5・13 同好会発足会 於 須坂小学校
- 5・24 上高井教育会総会・講演会 於 須坂市民会館
- 講演会 講師 お茶の水女子大学 助教授 飯長 喜一郎先生
- 演題 「日本の子どもたちは いま」
- 6・28 第十回 上高井教育懇談会

郷土の文化財 ⑦③

健御名方神社の幟

大谷町 健御名方神社

仗神威而保萬姓 五月吉日 尊徳堂よし

藉福澤以惠此方 明治三十二年

須坂市大谷町健御名方神社の秋祭りに参道入口に掲揚される幟である。大きさは長さ千九百糎、幅百十糎、帆布木綿製である。明治三十一年日滝村々長中村孫右衛門及び高橋町山岸庄作、小林鶴吉の三名が飯山の樞密院議員丸山某氏の紹介で樞密院議長近衛篤磨公に揮毫を頼むため上京し

(土屋)

自己教育力の育成を願う 実践研究のあり方を求めて

研究委員長 米川昭司

今年度の私達の研究委員会は、すでに子どもがねばり強く、自己形成をしていくための指導のあり方を、全体テーマにすえ、中央講師として、名古屋大の三枝孝弘先生に継続して指導を頂きながら各委員会それぞれ独自の研究のためのサブテーマを設定し研究をおし進めています。

特に今年度は、新たなテーマをもうけて一年目を迎えるので、全体テーマの共通理解を中心として、三ヶ年を見通した研究内容、研究方法……等の計画の立案に重点をおき各委員会の研究推進に当るよう努めることになっていきます。

なお昨年は、過去三ヶ年のまとめとして、一応子どもが創り出す学習」と題して、授業分析を通じての研究録をまとめました。それは特に子ども達の自ら創り出すとする創造性を大切に児童・生徒が自ら学び方を学ぶ力を育てる学習指導のあり方を求めて、授業分析を通じて実践的に研究を進めたものの集録であります。この研究録は、過去三ヶ年間の一応、研究の成果とみることが出来ると思えます。その成果の上に立って、本年度は、現在、中教審の報告書で大きく問題とされている「自己教育力」

ご指導を願いつつ、各委員会での研究計画の立案の参考にという方法を取ることにしました。

これは、各委員会の研究が少しでも、全体テーマに迫る研究でありたいという願いから決めた方法であります。是非この機会を大切に、現場研究の主体性を十分に生かした、現場から生まれ、現場で役立つ実践研究を進めて頂きたいと思えます。私どもの最近では、とかく日常の多忙さに追われ研修の機会が少ないように思われます。会員として全員が一つのねらいに向かって研修をするよい機会と思えます。一人ひとり自主的に積極的に研究に参加し、能動的な研修活動を通じて教師の専門職の力をつけるよう努力を期待いたします。

同好会へのいざない

同好会長 赤堀昭三

上高井教育会同好会の草創とその発展の歴史については、昨年度、本教育会百周年記念事業の一環として刊行された「上高井教育のあゆみ」及び「上高井教育会報復刻版一〇号」を編いてみてほしい。そこに、先達が情熱を傾け、哲学に美術にあるいは書等々に研鑽を重ねてきた足跡をみることが出来る。

同好会の趣旨は、一つの道に志す同好の士が互いに切磋

男女の違いをこえ、それぞれ求道の姿にふれ、語り合うなかから創りだされる風を大切にしていこうとするところにあると思う。

孤高ひとり学ぶ姿は尊いが集う同好の士が互いに裨益しあうことは私たち教師群の姿でもある。道元の教えであったらうか。「例え、七才の童子であつても自分より優つていならば、それに教えを乞うべきである」と説いたのは、同好の集いには、この厳しさがあり、同好の集いたる所以である。

本年度の同好会の数は十三を数える。学校によつてばらつきはあるが、同好会への加入は約64%である。

同好会の運営について、「時間的に同好会の学習時間がとれない」「多忙で参加できない」という声もあり、他にも意見・希望が出ている。本来同好の集いは、自主的・能動的・自律的な運営であるべきで、定められた日に研修できない場合は運営の妙を發揮してほしいと思う。

専門部の指導をおえた先生方が参加出来る時間、夜更けまで論じ合える雰囲気等、互いに努力し、学習の途を見出していくより最善の途はない。若い先生方の情熱に満ちた草創期・発展期の頃の同好会の風が、現今、なんとなく失われているかの感がある。

同好会へのいざないは、ガムシヤラな情熱を持った若い先生方によつてなされる。

特殊研究者 決まる 県外視察者

信教・特殊研究者

氏名	学校名	研究テーマ
丸山 武彦	森上小	描画表現領域における内容と系統の一考察—小学校を中心にして—
小林 澄恵	須坂小	創造性を大切にし、勤労生産活動に取り組む生徒の育成
羽田 光一	高山中	須坂市の降雨と気圧前線の関係
加藤 正幸	常盤中	県外視察者
関口 虎雄	栗ガ丘小	総合的指導(全科教育)
神林 信雄	高山小	地域に根ざした社会科の研究
春日山さだ子	須坂小	子どものみどりについて
林 耕史	須坂小	古美術研究について
松田 悦司	小山小	地域の素材の教材化
小林 明子	小山小	合唱指導について
水野 直	小山小	デザイン指導について
越 修一	森上小	図工美術について
山本 勇一	日滝小	体育研究について
朝間 春子	豊洲小	特活指導について
柳原 孝子	日野小	国語教育について
宮前 日王	日野小	合科総合について
常長 虎徹	井上小	先進的な同和教育の実践校の視察
中村 幸雄	高甫小	学校運営について
中村 明美	旭ヶ丘小	合唱指導のため
高橋 英敏	仁礼小	学級指導のあり方について
山際 正巳	仁礼小	美術教育におけるデザイン指導
青木真由美	豊丘小	総合学習について
小平 知行	高山中	パソコン等教育機器による算数・数学教育の視察
浅岡 修一	高山中	中学校における勤労生産活動のあり方
北澤 克昭	常盤中	体育施設見学のため
溝上 正弘	常盤中	英語科における指導研究
山崎 和男	相森中	体育—主として球技指導—
古幡 昌平	相森中	数学—評価にもとづく授業展開—
高野 順子	高山小	低学年の指導について

勇気づけられて

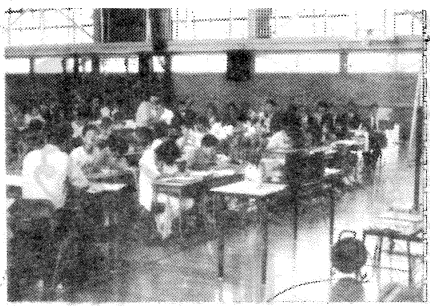
代田 康博

昨年の私は、お恥ずかしい話ですが、教育会総会とはどんなものかわからず、他の先生方の後についてただ出席だけしてました。また支部定期大会との区別もつきませんでした。

教育会総会と支部定期大会の違いがわかるようになってきた二年目の今年、この教育会総会で私は、とても勇気づけられ、参考になりました。

と申しますのは、今年からクラスを持たせて頂く事になり四月当初「いいクラスにしよう」と思いました。

しかし、その思いが強いあまり、大上段に私が構えてしまい、私にとって都合の悪い事が起こりそうになると、それを力で押しつけてしまったりしています。家に帰って反省すると、これから伸びよう



としている芽を一つ一つ丁寧に摘み取ってしまっているのではと思ってしまう。

そして反省してみても翌日になれば同じ事の繰り返しでどうすればいいのかわからぬでいるだけでした。

その中で、本日の大日方先生の意見発表では、大先輩の先生でもうまいか？と悩んでいるのだなと思ひ、とても安

心しました。また、宮下先生の発表では、授業を工夫して頑張った取り組みが、しっかりやらなくてもはいけないと思ひました。そして、飯長先生の講演では、「体でぶつかけ、子供たちと共に」、「一人で抱え込まない」など具体的なお話を伺ってとても勇気づけられました。

私の今までの悩みは悩みのうちには入らない。失敗はあってもいい。失敗を恐れていては何もできない。と思ひ明日からの勇気が出ました。

(小布施中)

今年度の研究の視点

峯村 知栄

たると願う。

音楽科での研究テーマは昨年引き続き、歌を中心とした表現活動に重点を置き、ひとりひとりが意欲的に歌い、歌声の響き合う学校作りを目標に取り組んでいる。

年度当初としてまず心を開かせこだわりなく歌えるようにさせるために、生徒の心情に基づいた指導の手だてを研究の第一歩としたが、クラスによって起立、礼、忘れ物点検、私語の注意など授業規律に追われ、音楽美を感得させるにはまだほど遠い現状もある。そこで暖かな人間関係ができてはじめて、音楽の楽しさ、美しさ、喜び、満足感が味わえるわけだが、逆にこ

うした音楽の授業を通して豊かな人間関係が確立してい

同好会と私

太田 秀雄

私は、昭和五十二年から上高井の理科同好会、夏の研究調査に参加させていただいた。初めて見る米子不動奥の院の滝と、あの壮大な眺めには本当におどろいてしまった。それにも増して、私の心をとらえたのは、厳しい条件のもと

で生長する亜高山帯の植物だった。あれ以来、夏の同好会の研究調査はもちろん、一人でも、年に何回か出かけるようになった。

私は、山歩きが好きで、一人

べるなどしてきた。そのうち植物をやる先輩の先生と山歩きをさせてもらったり、郡市の自然研究調査などにも参加させてもらったりして、植物が自分の好きな道となっていた。

飯水の教育会にお世話にな

った時、教育会の自然調査研究に参加させていただいた。土曜、日曜や長期休みを使って、植物をはじめとして、昆虫、鳥、水質等をそれぞれ分担しての調査には、大変勉強になった。先輩の先生から、植物の見分け方、調査の方法

の本校教育基本目標「情操豊かな実践力のある子ども」として継承され、また学校目標の具現化を図る「いかに実感的、自立的に学ばせるか」の指導課題に結びついている。

そのため、昨年度から臥竜山を中心とした地域素材の教材化を校内重点研究の一つに据え、臥竜山がもつ近接性と学習素材の豊富さがもたらす体験学習の可能性の広さ

道 尋 雲 撥



小山小学校

期待し、子ども「心を開く」教育活動に努めてきている。

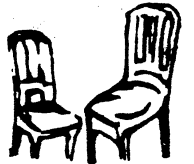
ちなみに、昨年度における学習の一、二を紹介すると、六学年の国語単元「俳句」の学習では、臥竜公園に建つ純夫の句碑「田植るは土にすがれる姿せり」の拓本どりに興

などを教えていただき、一つの仕事としてではあったが、好きなことをさせていただき大変ありがたかった。

また、五学年の「ゆとりの時間」の学習では、臥竜山奥国寺に伝わる亀の話を取材し民話作りに取り組み、それを素地として、図工科版画題材「臥竜山のお話」の共同制作に発展させた。

共に「撥雲尋道」をめざす師弟同行の教育実践となった。「撥雲尋道」の銘は本校教育活動の指針として驪山の書になり体育館に掲額されている。(山崎尚武)

火鉢後



この一冊

羽生田 敏

東京での児童文学の会で、著者の赤木由子さんから、『生きるんだ！名犬パール』という本をいただきました。この本で、ひさしぶりにふかい感動にひたることができました。列車の乗客をきずきながら、涙のうちに読みました。それで、車窓の外を走る軽井沢のカラマツ林が、ぼんやりとかすんで見えました。感動するということは、なんと疲れることでしょうか。かなしみの心に、ほんのいっしゆん、さわやかさがよみがえったのは、最後のパールの元気な姿をみたからかもしれませぬ。

もうこの世にいない行雄をさがしもとめるパールのなかに、人間のせつなさを感ぜないわけにいきませんでした。この作品のよさは、母親の目から、きびしい現実をきちんととらえ、家族が誠実に生きていくところにあると思います。パールにそそぐ母親の愛は、あふれるような美しいものがあります。

一方、今の児童文学は、や

(小山小)

私が碁石を初めて手にしたのは、今から三十年前の井上小時代である。碁の好きな先生方が多くおられ、職員旅行に行くにも碁盤を持参し、夜汽車の中で、また、宿に着くと旅の疲れも忘れ対局していた。学校では五時過ぎると宿直室は急に賑やかになり、真剣に火花を散らす場面もあり、また、笑いが起こり職員

碁との出会い

田野 功

の和の深まりを感じられた。こんな雰囲気の中で碁を覚えたい気持ちに変わっていった。ある宿直の夜だった。中学校の碁の好きなHM先生と同宿の時「碁をやるう」と誘われ、何も知らない私を相手に

数が減っていくのが楽しみであった。馬鹿な一つ覚え、というか夢中になり、家に帰るのも忘れ、時には夜中の一時過ぎになることもあった。父兄の中にも碁好きな人が

一年生が入学して二カ月が過ぎようとしている。入学当初の我がクラスの教室の中は、掃除はよくしてあるが、何となく殺風景を感じがしていた。そこで私は美しい環境作りをしようと思い、花を飾ったり、カーテンを結

大勢いた。中でも郵便局の局長さんは、私のような初心者にも気持ちよく相手をしてくれた。土曜日の夜はいつもおそくなった。今でも感謝している。

編集後記

(豊丘小)

教卓の花

山崎 久子

ぶひもをつけたりしていた。が、生徒たちはあまり反応を示さず、ただ自分の生活に一生懸命である。教卓の鉢の花もすっかり枯れて種がこぼれている。この花を私が片付けるのは簡単だが、それでは生徒たちは何も気づかずに終わってしまうだろうと思い、「自

次の日、教卓にきれいな花が飾られ、壁にはカレンダーが掛けられてあった。また、掲示物がはがれていると、男子が気づき画鋏で止めていた。こちらの言い方次第で生徒たちはこんなにもやる気が出てくるものなのかと考えさせられた。今までは教師側からのしつこい、ああしろ、こうしろ、という命令に慣れてしまっていたかと思われ。自分から気づき、本人が素直な気持ちで考えられるような発想のきっかけを教え、生徒の中にある自主性、自発性を伸ばしていくことが大事だと思ふ。教えるべきところは教え、考えさせるべきところは大いに考えさせて、生徒が自立する手助けをしたい。

今日もぼたんの花が美しい。

(墨坂中)

(信教)

望月千恵子(高甫小) 横山弘子(相森中) (係 土屋・小山)